

平成29年1月31日（火）

津島市市長公室企画政策課（佐藤、横井）

電話番号 0567-24-1111（内線2330、2333）

REDISCOVERY TSUSHIMA 短編小説コンテストの受賞作品が決まりました ～寅間心閑さんの「ダナモさん」が大賞に決定～

まちの魅力を再発見し、情報発信するため、そして、津島を訪れた方をもてなすことで、まちのイメージアップを図り、まちのにぎわいを創出するため、平成28年度から「津島“にぎわい”創出プロジェクト」を始めています。

プロジェクトのひとつである「REDISCOVERY TSUSHIMA 短編小説コンテスト」【資料1】の最終選考会を平成29年1月23日（月）、津島市役所で開催し、応募総数102編のうち選考対象の96編の中から大賞1編、佳作2編が決定しました。

1 受賞作品

(1) 大賞（副賞30万円）

「ダナモさん」 寅間 心閑（とらま しんかん） （東京都渋谷区）

(2) 佳作（副賞10万円）

「天王通りの喫茶店が売られる日」

鷺尾 裕二（わしお ゆうじ） （三重県四日市市）

「大きな金魚」 舛田 順一（ますだ じゅんいち） （香川県多度郡多度津町）

あらすじ、受賞者コメントは、【資料2】のとおり

2 選考の経過

【資料3】のとおり

3 最終選考委員

委員長 堀田あけみ氏（作家・大学教授）、清水義範氏（作家）、清水良典氏（文芸評論家）、熊沢尚人氏（映画監督・脚本家）、木全純治氏（映画館支配人）

最終選考委員プロフィールは【資料4】のとおり

4 今後の取組み

(1) 表彰式

1) 日 時 平成29年3月1日（水）午後2時から

2) 場 所 津島市役所市長公室

(2) 受賞作品の発表・活用について

受賞作品を収録する受賞作品集の発行及び専用WEBサイト「にぎわいネット津島」に掲載し、津島市の魅力発信に役立てます。また、次年度以降映像化について検討していきます。

5 参考資料

- (1) REDISCOVERY TSUSHIMA 短編小説コンテスト 募集要項【資料1】
- (2) 受賞作品【資料2】
- (3) 選考の経過【資料3】
- (4) 最終選考委員プロフィール【資料4】

【資料 1】

REDISCOVERY TSUSHIMA 短編小説コンテスト 募集要項

津島神社、天王祭など定番の資源はもちろん、あまり知られていない魅力的な場所や日頃見かける町並み・小路・公園など自分だけのお気に入りヒト・モノ・コトなど、津島の魅力を描いた短編小説を募集します。受賞作品をまとめた作品集を制作し、津島の魅力発信に役立てます。また、次年度以降、映像化を検討していきたいと考えています。

1 募集期間

平成28年7月1日(金)～10月31日(月)

2 応募作品

下記に該当する短編小説

- (1) 津島市を舞台とした作品であること
- (2) 日本語、縦書きで400字詰め原稿、12枚～20枚の作品であること
- (3) 応募者が創作した未公表の作品であること

3 応募方法

- (1) 専用WEBサイトからアップロード
- (2) 郵送（〒496-8686 名古屋市東区葵一丁目19番30号
津島“にぎわい”創出プロジェクト事務局（短編小説コンテスト係）宛）
- (3) 持参（名古屋市東区葵一丁目19番30号 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)名古屋内「津島“にぎわい”創出プロジェクト事務局」平日10時から17時）

(4) 選考

- ・一次選考で選出された作品を対象に、最終選考委員5名による最終選考会を開催し、受賞作品を選出します。
- ・最終選考委員は、委員長 堀田あけみ氏（作家・大学教授）、清水義範氏（作家）、清水良典氏（文芸評論家）、熊沢尚人氏（映画監督・脚本家）、木全純治氏（映画館支配人）

(5) 賞

大賞（1編） 賞状、副賞(30万円)
佳作（2編） 賞状、副賞(10万円)

(6) 表彰式

平成29年3月1日(水)午後2時から 津島市役所市長公室

【資料2】

REDISCOVERY TSUSHIMA 短編小説コンテスト
受賞作品

1 大賞 1編

「ダナモさん」 寅間 心閑（とらま しんかん） （東京都渋谷区）

【あらすじ】

別れた男を追って東京から津島に引っ越してきた「私」は、働き始めた居酒屋の客「ダナモさん」に段々と惹かれていく。

【受賞者のコメント】

なるべく穏やかで、ゆったりとした物語にしたいと考えていました。奇をてらわず淡々と描いてみよう、と。今回、素敵な賞を授けていただいたことで、その目論見はあながち外れていなかったのでは……と安堵しています。この受賞を励みとし、更に精進していく所存です。

2 佳作 2編

「天王通りの喫茶店が売られる日」

鷺尾 裕二（わしお ゆうじ） （三重県四日市市）

【あらすじ】

主人公と交流があった天王通りの喫茶店主のおばさん。その喫茶店を売ることになった一日に、主人公がいろんなことを思い巡らす。

【受賞者のコメント】

私自身のかなり前の記憶と、津島の町並みを掛け合わせたら、こんな物語が出来ました。対外的にほぼ処女作のこの作品に光を当てていただき、また高い評価を頂いて光栄です。この作品が津島の町の魅力再発見に少しでも貢献出来たのであれば、喜ばしい限りです。

「大きな金魚」

舛田 順一（ますだ じゅんいち） （香川県多度郡多度津町）

【あらすじ】

香川県で育った孤児の主人公が、出張に行った津島市で津島神社のお守りと尾張津島天王まつりの宵まつりの巻藁舟をトリガーに偶然に生みの母に会える。

【受賞者のコメント】

津島市を営業で何度もお訪ねするうちに、大好きな街になりました。

この賞の募集を知り家の近くの津嶋神社と津島神社が、一字違いなのに縁を感じ応募しました。佳作という高い評価をいただき感動しております。私は今年還暦を迎えますが、本当に良い記念となりました。

3 最終選考委員長（堀田あけみ氏）の講評

「ダナモさん」は、まず「脱皮」という表現で、物語に引き込まれました。思い切った行動をとる主人公の心の動きに無理が無く、丁寧に描かれていて、自然に彼女を、そして「悠々」と応援したくなる、大賞にふさわしい作品です。

愛すべき店が消えて行く「天王通りの喫茶店が売られる日」は、一番大切な、おばさんと最後のランチを食べるところで、感情表現がちょっと雑になったのが残念でした。

「大きな金魚」は、アイデア倒れになりそうな素材を上手く仕上げていると思います。謎ときと心の動きがバランス良く物語を進めて行きました。

多様な作風の中、「今の津島市」が生き生きと描かれた三作を選ぶことができ、安心しています。

【資料 3】

REDISCOVERY TSUSHIMA 短編小説コンテスト
選考の経過

1 応募期間

平成28年7月1日から10月31日まで

2 応募作品数

102編 (選考対象：96編、選考対象外：6編)

応募者居住地	津島市内	愛知県内	愛知県外	選考外	計
応募作品数	16 編	30 編	50 編	6編	102編
応募者数	14 人	27 人	49 人	6人	96人
複数応募者数 (作品数)	1人 (3編)	1人 (2編)、 1人 (3編)	1人 (2編)	—	4人 (10編)

3 一次選考

(1) 期間

平成28年11月上旬～12月上旬

(2) 一次選考通過作品数

14編

4 最終選考 (事前選考)

(1) 期間

平成28年12月中旬～平成29年1月上旬

5 最終選考会

(1) 日時

平成29年1月23日(月)午後3時～4時30分

(2) 選考内容

大賞1編、佳作2編を選考

【資料4】

最終選考委員プロフィール

顔写真	経歴
	<p>堀田あけみ（作家）</p> <p>1964年 愛知県七宝町（現あま市）生まれ。作家・心理学者・椋山女学園大学教授。</p> <p>1980年 中村高校在学中に『1980 アイコ十六歳』で文藝賞受賞。</p> <p><主な著書>『イノセントガール』『唇の、することは。』『発達障害だって大丈夫』『おかあさんになりたい』『おとうさんのつくりかた』『花くらべ』『泣けてくるじゃない』『もういない、あなた』など。</p>
	<p>清水 義範（作家）</p> <p>1947年 名古屋市生まれ。作家。</p> <p>1981年 『昭和御前試合』で文壇デビュー。</p> <p>1986年 『蕎麦ときしめん』で前例のないパスティーシュ（様式模写）の分野を開拓。</p> <p>1988年 『国語入試問題必勝法』で吉川英治文学新人賞受賞。</p> <p>2009年 中日文化賞受賞。</p> <p><主な著書>『金鯱の夢』『永遠のジャック&ベティ』『イマジン』『おもしろくても理科』『尾張春風伝』『愛と日本語の惑乱』など。</p>
	<p>清水 良典（文芸評論家）</p> <p>1954年 奈良県生まれ。文芸評論家・愛知淑徳大学教授。</p> <p>1986年 群像新人文学賞（評論部門）受賞。</p> <p>1993年 名古屋市芸術奨励賞受賞。</p> <p><主な著書>『笙野頼子 虚構の戦士』『自分づくりの文章術』『村上春樹はくせになる』『2週間で小説を書く！』『MURAKAMI』『文学の未来』『あらゆる小説は模倣である』など。</p>
	<p>熊澤 尚人（映画監督・脚本家）</p> <p>1967年 名古屋市生まれ。映画監督・脚本家。</p> <p>1994年 ㈱ポニーキャニオン在職中に自主映画『りべらる』がPFFに入選。</p> <p>2003年 短編映画『Tokyo Noir～Birthday～』がスペイン映画祭に招待。ポルト国際映画祭最優秀監督賞を受賞する。</p> <p>2005年 『ニライカナイからの手紙』で長編映画デビュー。</p> <p><代表作品>『親指さがし』『虹の女神』『雨の翼』『DIVE!!』『おと・な・り』『君に届け』『ジックス!!!』『近キヨリ恋愛』『ユリゴコロ（2017年9月、全国公開）』</p>
	<p>木全 純治（映画館シネマスコーレ支配人）</p> <p>1948年 名古屋市生まれ。名古屋市市中村区の映画館シネマスコーレ支配人。椋山女学院大学非常勤講師、中部大学非常勤講師。</p> <p><主な芸術活動></p> <p>1992年 アジア文化交流祭代表（～1995年）、中日新聞ビデオ案内担当（～現在）</p> <p>1996年 あいち国際女性映画祭ディレクター（～現在）</p> <p>2005年 EXPO2005 フレンドシップ・フィルム・フェスティバルディレクター</p> <p>2007年 NHK 文化センター映像制作講師</p>